

○ 科目構成の改善はどのように図られているか。

これまでの「国語表現Ⅰ」、「国語表現Ⅱ」、「国語総合」、「現代文」、「古典」及び「古典講読」の6科目から成る構成を、「国語総合」、「国語表現」、「現代文A」、「現代文B」、「古典A」及び「古典B」の6科目から成る構成に改められた。このうち、総合的な言語能力を育成する「国語総合」を共通必修科目とし、他の5科目は、「国語総合」の内容を、科目の性格、特色に応じて発展させた選択科目となった。選択科目のうち「現代文A」は新たに置かれた科目であるが、その他の科目は、これまでの関連する科目を受け継ぎつつ、内容が再構成又は改善されている。

今回の改訂で共通必修科目が置かれたのは、答申において「学習の基盤であり、広い意味での言語を活用する能力とも言うべき力を高める国語、数学、外国語については、現在選択必修となっているが、義務教育の成果を踏まえ、共通必修科目を置く必要がある。」と提言されたことによる。この趣旨を踏まえ、必修科目として、これまで「国語表現Ⅰ」及び「国語総合」のいずれかを選択履修としていたのを改め、「国語総合」が共通必修科目となった。これにより、高等学校国語において指導する内容の共通性が重視されることとなった。

表現に関する科目が1科目となったのは、「国語総合」との関係を整理し再構成したためである。また、これまでも2科目で構成していた古典に関する科目に加え、現代文に関する科目も2科目となったのは、生徒の多様性に対応するとともに、言語文化についての指導を重視するためである。

【科目構成】

平成21年告示学習指導要領		平成11年告示学習指導要領	
科目名	標準単位数	科目名	標準単位数
国語総合	4	国語表現Ⅰ	2
国語表現	3	国語表現Ⅱ	2
現代文A	2	国語総合	4
現代文B	4	現代文	4
古典A	2	古典	4
古典B	4	古典講読	2